



営農支援課長補佐 小暮 賢司  
〔明戸・大寄・深谷・幡羅地区担当〕

\* 今月号は私が担当しました。

## 果菜類のウイルス病対策について

### ウイルス病とは？

果菜類（特にキュウリやトマト）にはウイルス病（表1）という、かかってしまうと対策の取りようのない恐ろしい病気があります。この病気は、アブラムシ類やコナジラミ類などの微小害虫が媒介し、農作物へ伝染させます。これらの虫は野外及び施設の一部で冬を越し、温度の上昇する春から行動が活発になり、それと同時に、病気による被害範囲も拡大します。当JA管内でも、抑制キュウリで、ミナミキイロアザミウマが媒介する黄化えそ病による被害が発生しました。正確な知識を得て効率のよい防除を心がけましょう。

表1 キュウリ・トマトの主なウイルス病

作物名	病名(病原名)	症状	伝染様式・特徴
キュウリ	モザイク病	葉モザイク、退緑班・奇形、えそ斑点	アブラムシ伝搬、汁液・接触伝染
	黄化えそ病	葉退緑班・えそ斑点、側枝伸長抑制	ミナミキイロアザミウマ伝搬、汁液伝搬
	黄化病	葉の退緑班、葉脈間黄化、伸長抑制	オンシツコナジラミ伝搬
	退緑黄化病	葉の退緑班、葉脈間黄化、伸長抑制	タバココナジラミ伝搬
トマト	モザイク病	葉のモザイク、退緑班・奇形 果実えそ斑点・株の萎凋	汁液・接触伝染、種子伝染、土壌伝染 ミナミキイロアザミウマ伝搬、汁液伝搬
	黄化えそ病	葉の退紫褐色班、葉・茎・果実にえそ斑点	タバココナジラミ伝搬
	黄化葉巻病	葉の退緑、葉巻症状、葉脈間黄化	

## 基本的なウイルス病防除の考え方

(1) ウイルスを持ち込まない  
外部からのウイルスを保持している虫の飛び込みを、防虫ネットなどを使用し防止する。(表2)

## (2) ウイルス病を広げない

保毒している媒介害虫を防除する。(薬剤及び粘着剤の使用)

## (3) ウイルス病を持ち出さない

媒介害虫の防除と感染株の抜き取り処分、それと同時に感染雑草の除草や野生生え作物の処理を的確に行い、地域全体の密度を減らす。

## (4) 育苗期の重点防除

物理的防除法（防虫ネット、粘着資材、光反射資材）の利用。

表2 防虫ネットの目合いによる害虫侵入防止効果

目合い	害虫の種類
2~10mm	オオタバコガ、ハイマダラノメイガ、モンシロチョウ ヨトウガ類、マルハナバチ（3~4mmが適）
1.0mm以下	コナガ、アオムシ、カブラハバチ、ヨトウムシ類
0.8mm以下	キスジノミハムシ、アブラムシ類
0.6mm以下	ハモグリバエ類
0.5mm以下	アザミウマ類
0.4mm以下	コナジラミ類

## 薬剤抵抗性害虫への対策

防虫ネットなどの資材を活用しても虫の飛び込みを完全に防げるものはありません。また、薬剤に対し抵抗力をもつ媒介害虫も存在し、特に施設培果菜類（キュウリ・トマト・ナスなど）で、問題となっているコナジラミ類やアザミウマ類は、年間発生回数が多くなり、薬剤抵抗性が速やかに発達することから難防除害虫となっています。近年では、キュウリなどで、うどんこ病や褐斑病に対して耐病性を持つ品種の導入が進んでいるため、薬剤散布回数自体が減少していることも要因の一つかもしれません。

こうした、難防除害虫の対策として抵抗性の発達しない天敵（スワルスキーカブリダニやミヤコカブリダニ等）による防除も、減農薬・環境保全型農業などの観点からも注目されています。

ウイルス病対策は、上記の基本的なウイルス病防除の考え方をともに、媒介害虫対策として防虫ネット、粘着資材及び光反射資材、薬剤防除、そして抵抗性品種の利用などを組み合わせ、総合的な考え方で防除対策を立てることが大切です。